

令和6年第1回
佐伯市議会定例会

市政諸般の報告

3月定例会
佐伯市

令和6年第1回佐伯市議会定例会の開会に当たり、市政諸般の報告を申し上げます。

1 能登半島地震被災地への支援について

本年1月1日に石川県能登地方で発生した能登半島地震におきまして、亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。また被災地の1日も早い復旧・復興を切に願っております。

本市としましては、被災地への適宜適切な支援をできる限り実施することにしており、現段階では「義援金の受付」、「市営住宅の提供」及び「要請に基づく人的支援」を行っております。

まず、「義援金の受付」につきましては、1月4日から本庁舎及び各振興局などに募金箱を設置しております。1月31日時点での義援金は約231万円となり、日本赤十字社を通じて被災者支援に充当されます。

次に「市営住宅の提供」につきましては、1月15日から入居の受付を開始しています。1月31日時点では入居の申込みはありませんが、引き続き支援を行ってまいります。

最後に「要請に基づく人的支援」につきましては、全国知事会の要請に基づき、大分県と県内各市町村の職員で編成される、被災地の支援業務に従事する職員派遣に積極的に参加することとしております。その第1陣として、去る1月26日から2月1日までの7日間、石川県金沢市に設置されている1.5次避難所の運營業務に従事する職員1人を派遣したところであります。今後は、職員2人の派遣を予定しており、さらに給水車による給水活動などの支援も行っております。

2 企業立地について

1月10日、愛知県名古屋市に本社を置く中部飼料株式会社が本市への立地表明、さらに同月18日には京都府京都市に本社を置く株式会社京都民際が本市への進出表明を行いました。

まず、中部飼料株式会社は、畜産・水産用配合飼料の製造販売を行う企業であります。蒲江浦にある旧蒲江栽培漁業センターを改修し、この場所に静岡県焼津市にある研究施設を移設する予定であります。操業開始は令和7年4月の予定で、ハマチ、マダイ等の養殖魚用配合飼料の研究、低魚粉、無魚粉飼料の更なる

改良、ハマチ人工種苗用飼料の開発など、各種水産養殖漁業に関する研究開発を行います。

次に、株式会社京都民際については、京都民際日本語学校を運営し、日本語教育事業の充実により、学生の満足度が高いと評価されております。校舎は蟹田の旧佐伯税務署を改修し、令和7年10月の開校予定であります。

この開校により、多文化共生社会の構築を図り、多くの外国人留学生が本市の住民になることで、地域活性化の取組や市民との交流促進につなげたいと考えております。

また、株式会社京都民際とは、進出表明と同時に、包括連携協定を締結しました。

この協定は、それぞれの有する人的・知的資源の活用と交流を図り、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の維持・発展に資することを目的としております。

連携項目は、多文化共生社会の実現や地域の将来を担う人材の育成に向けた取組、地域産業・観光振興に関することなどであります。

3 防災協定について

昨年 12 月 15 日に、株式会社九電工佐伯営業所と「災害時における緊急作業等についての協定」を締結しました。本協定は、災害発生時に、市の要請に応じ、同営業所が公共施設の機能復旧のための緊急作業等を行うことを定めたものであります。

また、同月 19 日に、イオン九州株式会社と「災害時における生活必需物資供給確保等についての協定」を締結しました。本協定は、災害発生時に、市民生活の早期安定を図るため、市の要請に応じ、同社が生活必需物資を有償で供給することを定めております。対象となる物資は、食料品、飲料水、日用品などでありま

す。

この 2 つの協定締結により、災害発生時の避難所開設の態勢が一層充実するとともに、避難所の開設期間が長期化した場合に懸念される物資不足の解消や、物資の質の向上につながるものと期待しております。

4 大規模林道災害に関する取組について

昨年 12 月 19 日に大分県庁退職林業技術者連絡協議会と「佐伯市における大規模な災害時における被害状況調査に関する協定」を締結しました。

大規模災害発生時における初期段階での林道災害

調査には、これまで多くの時間を必要としていました。

本協定の締結により、市内に点在する総延長 450 キロメートルに及ぶ 243 路線の災害調査を迅速に行うことが可能となり、早期復旧により地域住民の命や暮らしの安全の確保につながるものと考えております。

なお、本協定に基づく調査等に要する経費は発生せず、また、同協議会と大分県内の自治体との協定締結は、本市が初めてであります。

同協議会には県庁職員として林道災害に精通し、本市内での勤務経験がある人材が多く在籍しており、被害調査において正確な情報の収集が期待されます。

5 若者による音楽イベントの開催について

1月30日にさいき城山桜ホールで、若者による音楽イベント「第1回^{わかおん}若音」が開催されました。

このイベントは、若者を中心とした実行委員会が企画、運営することにより、主体的に行動できる人材の育成を図るとともに、若者のニーズにあった音楽イベントを楽しんでもらうことで、郷土愛の醸成につなげることを目的に開催されたものであります。

当日は、新進気鋭のアーティスト「キタニタツヤ」

氏のライブコンサートを始め、日本文理大学附属高等学校ダンス部^{ジェリービーンズ}JellyBeansによるアトラクション、キッチンカーの出店などが行われました。

運営に当たっては、実行委員を始めボランティアスタッフとして、市内の若者約 40 人が連携協力し、市内外から約 700 人の皆様に御来場をいただき、大盛況となりました。

今後も、若者が中心となってイベントを開催することにより、本市の活性化と魅力アップにつながるよう、支援してまいります。

6 ユネスコエコパークシンポジウムの開催について

2月4日、さいき城山桜ホールにおいて、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」や「さいきオーガニックシティ」の理念とその活動を市内外に広く周知を図ることを目的に、シンポジウムを開催しましたところ、県内のみならず県外から約 300 人の皆様に御来場いただきました。

当日は、登山家である服部文祥^{はっとりぶんしょう}氏を講師に「サバイバル登山から廃村自力生活へ」と題した基調講演があり、自然人としてのたくましい生き方と考え方、さら

に、限りない家族や動物への愛の深さに感動いたしました。

また、「自然との向き合い方について」と題して実施したパネルディスカッションでは、エコパークとさいきオーガニックの理念は同じものであり、自然と人とが共に生きて調和していくことが持続可能なまちづくりにつながっていくことを再認識させていただきました。

今後とも豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶとともに、経済・社会・環境が三位一体となった持続可能な発展を目指すまちづくりに努めてまいります。

以上をもちまして、市政諸般の報告を終わります。